

# 2017

**KOSÉ SUSTAINABILITY REPORT**  
社会・環境報告書



## 優れた品質の化粧品をおとどけしたい

コーセーグループは株式会社コーセーの前身である小林合名会社を、小林孝三郎が1946年に設立したことに始まりますが、以来60年以上にわたってほぼ化粧品のみを中心とする事業を展開してきました。これは明治期の末に化粧品業界に身を投じた小林孝三郎が、自らの長い業界経験から「優れた品質の化粧品をお客さまにお届けしたい」と願って起業したその想いを、今でも堅持しているからに他なりません。

1991年にCIを導入してからは、企業経営の基本ともなる存在理念を「英知と感性を融合し、独自の美しい価値と文化を創造する」という言葉に集約しましたが、独自の技術を駆使して最高の品質の化粧品をお客さまひとりひとりにお届けすることを活動の原点としていることは何ら変わりません。

このような姿勢が、業界内外から「品質のコーセー」「開発力のコーセー」と評価されることにもつながっています。

過去に、コーセーは化粧品業界で初めて、美容液やパウダーファンデーション、2ウェイトタイプのファンデーションなど様々な

画期的化粧品を開発し、女性の化粧習慣に新たな提案を行ってきましたが、これも「全てはお客さまのために」という信念が形になったものだけということができます。

私は全社員に対して、活動理念として「良い商品を 良いお店で きちんと売る」ことを提案しました。これはコーセーが60周年を迎えたことを機に、もう一度コーセーという企業の原点に立ち返って、社員のひとりひとりが「お客さまのために」という気持ちを持った活動をしようではないかということです。

もともとは創業者がコーセーの黎明期によく口にしていた言葉でしたが、現代にあっても十分に通用する理念ではないかと考えています。

「良い商品」を開発するために研究に力を入れるのはお客さまのためですが、それを手渡す化粧品店が「良いお店」で、しかも正しいカウンセリングや使い方の指導ができたり、お客さまが選びやすくなっているなど「正しく売る」段階までサポートして行くことが大事です。私はそのようなことをひとつひとつ積み重ねて行くことが、企業が広く社会から信頼されることにつながるものと考えています。

# 良い商品を 良いお店で きちんと売る

## 全てのステークホルダーとの共生

CSRに対する取り組みも企業の経営課題のひとつです。

現在、「コーセーグループ 行動指針」を策定して、全社員にその遵守を促しています。内容的にはコンプライアンスに重点がおかれていますが、その中心をなす「行動憲章」は創業者・小林孝三郎の「正しきことに従う心」という座右の銘をそのまま据えました。

しかし、その解説に「コーセーグループは正しいことは何かを見つめながら“正しきことに従う心”をもって、倫理に即した行動に徹し、法令・社会的規範を遵守し、コーセーグループに関わる全ての人々の人権を尊重し、お客様をはじめ広く社会から支持される誠実で誠意のある企業であり続けることを目指します」とあるように、企業の社会的責任を強く意識したものとなっています。お客さまはもとよりお取引先の皆様、株主の皆様、コーセーグループで働く社員、地域社会や国際社会、そしてかけがえのない地球という環境とのより良い共生

実現に向けたCSR活動に取り組んでいます。

中でも環境保全活動につきましては、社内に地球環境委員会を設けるなど早くから積極的に取り組んできました。環境関係の国際的なマネジメント企画であるISO14001も関係会社を含めた国内の全生産拠点、中国の下沙工場、国内の全物流拠点で認証を取得しています。

環境保全活動は企業としての取り組みはもちろん、社員ひとりひとりが意識を持って取り組まなければ成果をあげることができません。社員教育や社内報で啓発活動を行ったり、『チーム・マイナス6%』への参加を呼びかける活動などを続けています。

このような意識の高まりが狭山工場や群馬工場のゴミのゼロエミッション達成につながったものと考えています。

コーセーグループは事業活動を通じてステークホルダーの皆様との共生をはかり、より良い社会の実現と地球環境の保全に貢献してまいりたいと考えておりますので、よろしくご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



株式会社コーセー  
代表取締役社長 小林 一俊

*K. Kobayashi*